

令和6年12月24日(火)



抜歯は、歯科医が日常の診察で直面する重要な課題の一つです。歯を残せるかどうかは、歯の状態だけでなく、本数やかみ合わせ、癖や習慣、年齢、健康状態など、あらゆる要因を考慮する必要があります。

抜歯の主な原因となるのは、1位が歯周病、2位が虫歯、3位が骨折(主に歯根骨折)です。歯周病は進行するまで強い痛みが出ないことが多く、気づきにくいのが特徴です。そのため虫歯がなく、ほとんど歯科医院に行ったことがないような人でも歯のぐらつきが生じ、抜歯が必要になることも考えられます。

## 抜 歯



抜歯が必要になることがある虫歯や歯周病の模型

抜歯は明らかに必要な場合もありますが、回避できることもあります。例えば、歯の根が残っていない重度の虫歯では一般的には抜歯となります。しかし根が長ければ、根管治療や矯正、骨整形などの技術で残せる可能性も出てきます。治療期間が長くなり、さま

ざまな条件も必要になるので、抜歯をする場合としない場合両方の計画を考えます。

治療が進む中で、新たな問題が発生することもあります。治療を始めてみたら、レントゲンには写っていないなかった歯のひびや骨折が見つかったり、治療が完了した後にくいしぼりで歯の根が割れてしまったりすることも。長い期間かけて適切な根管治療を行ったのに、かむと響くといったように、予定通りにはいかない場合も考えられます。そのため、事前のリスクを含めた治療方針の話し合いが大切になります。

最終的な目標は、歯をできるだけ保存し、長期的に痛みやトラブルがなくなり、しっかり食事できることです。治療法によっては保険外診療・自費治療となる場合もありますので、かかりつけの歯科医院にお尋ねください。

(鹿児島県歯科医師会情報・対外PR委員 毛利英樹)

## あらゆる角度から検討